

北海道手をつなぐ育成会 げっぼう

報告
第67回北海道手をつなぐ育成会全道大会・帯広大会
参加者620名(帯広会場200名・オンライン420名)



一人で見える夢はただの夢に過ぎない 皆で見える夢は実現できる!

記念講演 久保 厚子氏より

第67回北海道手をつなぐ育成会全道大会帯広大会(第28回本人大会)は8月7日(日)帯広市民文化ホールを会場に開催されました。当初、集合型による開催をめざし、準備を進めましたが、

新型コロナウイルス感染症拡大の見通しが不透明なため、本年2月「十勝管内の会員及び、希望者のみ帯広会場へ、その他はオンラインによる参加を」と、いわゆるハイブリット方式での実施に舵を切りました。



案の定、大会は第7波が押し寄せる中での開催となり、帯広会場では徹底した感染症対策が実施され、同時にオンラインによって映像を配信した箇所は、108ヶ所(育成会大会82ヶ所・本人大会26ヶ所)に及びました。大会の目的は第一に会員の交流。第

二に研修。しかし、オンラインによる大会日程は全体で半日と、限られた時間しかなく、運営には手順を何度も確認する等、随所に工夫がなされました。『シンポジウム』では、今後の育成会活動について本会関係者はもとより、福祉行政や教育関係者からもご提言をいただいた。今日に至る本会の諸活動を高く評価しつつも、今ある課題の解決に向け幅広い議論が展開されました。

『記念講演』の講師は久保会長(全国手をつなぐ育成会連合会)です。「育成会のこれまでとこれから」と題し、一人の母として自らの思いも交えながらお話が進みました。

重い知的障がいのあるお子さんが1歳、ご自身が24歳の頃、地元天津市の育成会に入会。お子さんの成長と共に、学校や地域で活動を展開され、36歳で天津市育成会会長、53歳で滋賀県育成会会長、61歳で全日本育成会理事長をお務めに。しかし、その1年後、会を解散。同年新たに設立した「全国手を

つなぐ育成会連合会会長」に。さらに多くの会員の支えを力に6年の月日を費やし、係争事を解決。2年前に一般社団法人格を取得、現在に至った育成会の再生と発展に半生をかけた歩みをお話しいただきました。

講演の最後には「本会の歴史を紐解く時、育成会活動の始まりは親たちの『やむにやまれぬ思いから』であり、1952年、先輩達が『精神薄弱児育成会(別名 手をつなぐ親の会)』と、あえて差別的な言葉を盛り込み、会を立ち上げたのは「我が子の人権回復を求める団体」として、ゆるぎない決意と、強い連携活動をめざした証拠。そして『人権活動』と『福祉活動』は地下水のように大地(社会)を潤し、人を潤し、人を育てます。その歩みは遅くとも、大地(社会)に役立ち、大地(社会)に無くてはならないもの。育成会だからできる、社会を潤す活動を、改めて皆さんと一緒に実現させましょう。」と締めくくられました。

『開会式』では、道善行賞、道育成会長表彰者12名の氏名が発表され、長年の労にねぎらいと感謝の拍手が、また『閉会式』では大会決議が満場の拍手で承認され、最後に次



期開催地となる、小樽増昌久会長のご挨拶で大会は幕を閉じました。

暮らし、仕事、災害(コロナ、戦争) 今ある不安と未来への願い

「第67回北海道手をつなぐ育成会全道大会 帯広大会」と並行し、同会場(小ホール)にて、大会への参加方式やプログラム進行をほぼ同様に標記の大会が開催されました。



瓜生さん(帯広えがおの会長)の進行でシンポジウムが始まり、標記にあるテーマに沿って「4名のシンポジスト」がそれぞれの現状と、今後の活動について提言されました。その後、続けて「指定発言者2名」が今感じている事を発表し、討議に移りました。すると、Zoomによる参

加者から次々と質問や意見が飛び出し、サポーターの光増さん、帯広養護学校の村上先生の協力を得ながら、瓜生さんが、指名していきま

す。「コロナ禍の中、どのような活動をしていますか」「終息したら何がしたいですか?」など、やはりコロナ感染症に関わる質問が一番多いように感じました。



シンポジウムが終了、休憩を挟み「クニさんミカちゃんコンサート」のスタートです。クニさんこと「クニ河内さん」はNHKへの出演やCMソング作成など、幅広い分野で活躍されている方です。大会参加者がかつて口ずさんだことのあるメロディを沢山演奏してくれました。ミカちゃんこと「野田美佳さん」のマリンバ演奏は圧巻で、張りのある美しい歌声は会場やZoom参加の皆さんを魅了したと思います。



参加型のコンサートで、それぞれにビニール袋を持ち、曲に合わせてシャカシャカと音を鳴らすコーナーもあり、ボランティアとして参加していただいた「帯広大谷短期大学」の学生の皆さんも、会場いっぱいシャカシヤカ音を出し、コンサートを盛り上げてくれました。

大会の最後は「閉会式」。今までの大会のように決議文の提案についてはみんなが発表したいと、各地の本人の会(11団体)で項目を分担し合い、事前録画した映像が流されました。シンポジウムの中でも、決議文については光増さんから「実行委員の皆さんがまとめてくれました。中には難しい言葉もありますが、みんなの願いが込められています。オンラインで全道の皆さんに伝わったのではないでし

ようか。」また、村上先生からは「(地域の学校で義務教育を受ける権利について)例えば先生の数を増やすなど、学ぶ環境をさらに整え、地域に即していけるのが理想ですね。」との言葉をいただきました。

道育成会の大会で本人部会(本人大会)が実行委員会形式で開催されたのは、1995年にさかのぼります。当時、旭川手をつなぐ育成会、小黒会長が前年に開催された育成会全国大会徳島県大会に参加し、本人分科会に参加。「ぜひ、北海道で開催を!」と道内各地の本人会の代表と旭川の実行委員会が準備を行い、本人大会の実行委員会を組織。1996年開催の第40回全道大会旭川大会において初めて、本人の企画・運営による「本人分科会」が実施されました。当時の実行委員会には「伊達」「旭川」「札幌」「小樽」「静内」「剣淵」にある本人会が参加。そして、この大会をきっかけに「旭川働く仲間会」が誕生しました。以後、本人大会は休むことなく開催され、新たな本人会の誕生と、本人大会決議にみられるように制度が変わり、新しい法律ができるたびにみんなで学び、検討し、要望項目に反映してきました。本年は11団体で実行委員会を組織し、大会は28回目を迎えます。

* 第26回大会は新型コロナウイルス感染症のため中止



「相模原殺傷事件 考える集い」

「事件から6年、伝えたい命の大切さ」

決して、忘れてはならない！



2016年7月、相模原市の知的障がい者施設で、45名もの人たちが殺傷された（死者19名）『津久井やまゆり園事件を考える集会』が7月24日、TKP札幌カンファレンスセンターで開催されました。（写真・札幌みんなの会 三浦会長）

知的障がいのある当事者でつくる「札幌みんなの会」「北風の会」「ピープルファースト北海道」が主催し、呼びかけに応えた40名ほどの方々が熱心に参加されていました。「犯人はどうして再審請求をしたのか?」「今、施設はどうなっているのか?」「施設から出た仲間はいるか?」「現在の様子を関係者からお聞きし、参加者みんなで考える集会です。」

事件当時に重傷を負った一人、尾野一矢さんは現在、施設を出て、地域で暮らす選択をし、介護者と共にオンラインで集会に参加されました。父親の剛志さん（一時期、保護者会の代表を務められた）も登壇され、事件から6年が経過した現在



の施設の様子や、心境を次のように話されました。

「植松死刑囚の行為と考える方は当然、許すことは出来ない。一方で施設以外に一矢が暮らせるところはないと思っていたが、事件以後、多くの関係者の努力をいただき、時間をかけた地域での生活体験等を通して、自らの判断で、施設以外での暮らしを選択するに至った。素晴らしいことだと感じている。」

事件の風化を許さないとする集会でもあり、その後も命の大切さや、地域での暮らしなどについて意見を交流し、終了後は希望者によるデモ行進を行いました。

コロナなんかには負けないぞ!

道内各地の育成会、只今奮闘中

親子でチャレンジ「パークゴルフ教室」

笑顔で ナイスショット! 滝川市

石狩川河川敷の「パークフィールド72」を会場に、7月2日「親子でチャレンジ! パークゴルフ教室」を開催しました。

実は昨年、開催直前に「緊急事態宣言」が発令され、泣く泣く中止。今年は雨の予報に当日の朝までハラハラでしたが、無事開催ができてほっとしました。



難易度が5段階もある72ホールのうち、初心者向けの9ホールを貸切にさせていただき、

親子兄弟姉妹に個人参加も含めて、21名が6チームに分かれてのスタートです。

パークゴルフ初挑戦の小学生チームは、各チームに一人ずついてくれたパークゴルフ協会の方の優しいアドバイスを受けながら、笑顔でクラブを振っていました。

マイクラブ持参でスコアカードとにらめっこの経験者チームは、真剣な表情でじっくりプレイしていました。

パークゴルフ協会員のサポートのおかげで、参加者全員が楽しい時間を過ごすことができました。

密を避けるために開会行事は時間差をつけて2グループに分け、プレイが終了したチーム毎に解散としましたが、これからも会員の皆さんと知恵を絞って楽しい活動が続けていきたいと考えています。

滝川市手をつなぐ育成会 青木 牧子



今後の予定

- 9月9日(金) 道育成会 第2回理事会 (オンライン・ハイブリット)
- 9月22日(木) 道事業所協議会 第2回役員会

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援

●就労に関する相談支援

●権利擁護に関する相談支援の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者、自閉症児者のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事者事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金 *プランによって補償します

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償 *プランによって補償します

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術 / 各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事者事故対応費用補償 *プランによって補償します

*上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

株式会社 ジェイアイシー 北海道支店

〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地102

レジディア大通公園 2F

TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

https://www.aig.co.jp/sonpo

札幌支店

〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F

TEL: 011-204-7510

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

北海道知的障がい児者生活サポート協会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階

北海道手をつなぐ育成会内

TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2021年12月現在の内容です。(D-005642 2023-03)

知的障がい・
発達障がい、
ダウン症、
てんかんの有る方、
ご家族に

病気やケガが絶えない・・・
成人病や生活習慣病に備えたい・・・
他人の物を壊してしまった・・・
虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある・・・

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの
あんしん保険
少額短期健康総合保険(無告知型)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

このようなお困り事に
心当たりがある方に・・・

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの
こども傷害保険
権利保護健康総合傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、
弁護士がサポート

弁護士が
全面的に
サポート

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5九段北325ビル4階

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。
【2020年1月作成 19-T06633】

0120-322-150
平日9時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
URL: http://www.z-kyosai.com/

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社オフィスブレイン
〒060-0032
北海道札幌市中央区北2条東3丁目2番地 札幌セントラルビル2階
TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の
目的です。私たちは、『経営』と『志』の統一を
目指しています。体力のある事業所も体力のない
事業所も助け合います。あなたの事業所の入会を
待っています。

**北海道手をつなぐ育成会
事業所協議会**

〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7(4F)
電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804
E-mail: doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

社会福祉法人 さくふう 朔風 朔風支援センターささえ～る
ひいらぎ(就労継続支援B型20名)/そら(共同生活援助19名)

〒006-0011 札幌市手稲区富丘1条4丁目3-12
TEL(011)213-8333/FAX(011)213-8355
E-mail: sasaeru-sakufuu@bz04.plala.or.jp

★主な作業【ひいらぎ(就労継続支援B型)】

- ☆委託作業(商品の袋詰め、シール貼り等)
- ☆施設外就労(公共施設清掃業務、コンビニ内商品陳列や清掃業務、病院内衛生業務、公園清掃)

